

○議長（茅沼隆文）

引き続き一般質問を行います。

それでは、9番、井上三史議員、どうぞ。

井上議員。

○9番（井上三史）

それでは、こんにちは。9番、井上三史。

先に提出した通告文に従って、開成町のインバウンド（外国人観光客）対策について、お伺いいたします。

近年、日本への外国人観光客が急増しております。観光庁統計によると2015年訪日観光客数は約1,974万人、2016年には約2,404万人で約20%の伸びであります。2020年には東京オリンピック・パラリンピックが開催され、政府は今後4,000万人まで増やす考えであります。

さて、第五次開成町総合計画基本構想によりますと、観光の推進の課題の中に、「年間を通じて観光客の誘致を図る」というキーワードが出てきます。観光の推進の基本方針は、二つあり、一つ、地域資源の発掘と活用により、四季を通じたまちの魅力の向上を図るとともに、観光を通じた町のPRを行う。二つ、近隣市町と連携した広域観光を推進するとある。

そこで、日本への外国人観光客が増える時代背景を受け、第五次開成町総合計画基本構想に盛り込まれている「観光の推進」に関連し、町のインバウンド（外国人観光客）対策についてお伺いいたします。

①広域観光を推進するために他市町との連携体制の拡充を。

②ターゲットに考えている観光客として、外国人観光客も含まれているか。

③外国人観光客が長時間滞在できる観光ルートは。

④外国人観光客の誘致に必要なインターネット環境は。

以上、登壇での質問とさせていただきます。

○議長（茅沼隆文）

町長。

○町長（府川裕一）

それでは、井上三史議員の御質問にお答えをいたします。

観光が主要産業である箱根町や・湯河原町等と異なり、開成町には歴史的な観光資源や充実した宿泊施設がないため、観光の目的や取り組みをこれらの市町村と同一に考えることは適当ではないと考えております。

しかし、北部の農業資源を活用した交流人口の拡大を図るため、例えば、箱根町を中心とした県西地域の市町との連携の強化による着地型観光の推進は、町の活性化のための重要な取り組みであると考えております。

では、一つ目の御質問、広域観光を推進するために他市町との連携体制の拡充を。についてお答えをいたします。

開成町において、観光資源となる施設等は少ないですが、現在「あじさいまつり」、「阿波おどり」、「ひなまつり」を町の三大祭りとして位置付け、町外からの集客に取り組んでおります。また、開成町の北部地域の「瀬戸屋敷」での年間を通じた年中行事や周辺の水田を活用した米栽培体験学習塾なども開催をし、町外から多くの交流人口拡大のための取り組みをしております。

また、市町村での広域連携として、魅力ある広域的な観光ルートを形成するため、神奈川県を事務局とする、あしがら観光協会での広域的な観光誘致に取り組んでおります。

県を超える取り組みとして、静岡県、神奈川県と山梨県の3県内38市町村で構成する富士箱根伊豆交流圏市町村ネットワーク会議などの枠組みでの広域連携を進め、隔年で開催されるサミットに参加し開成町のPRに努めております。

次に、二つ目の御質問、ターゲットに考えている観光客として、外国人観光客も含まれるかについてお答えをいたします。

これまで開成町の観光PRにおいて、特に外国人を対象としたものは実施をしておりません。あじさいまつり等の、キャンペーンにおいても、県内でもまだ開成町を御存知ない方が多いのが実情であり、外国人に特化したPRより、まず県内外にお住まいの方に開成町のすばらしさを知っていただき交流人口の増加を図っていく中で、外国人観光客もターゲットとして考えていきたいと思っております。

近隣の箱根町では、年間100万人を超える外国人観光客が訪れている中で、インバウンド対策をかなり充実をさせております。足柄上地区を中心に取り組んでいるあしがら観光協会とあしがらローカルブランディング推進協議会が協力して、今年度、日本語版の観光情報誌「るるぶ」を発行し、次年度は、英語版を作成することとしております。開成町としてもこれらの取り組みに歩調を合わせて対応を検討していきたいと考えております。

足柄上郡5町はシンガポールなどASEAN諸国に着目をし、インバウンド獲得による地域活性化ができるか、実現の可能性を今探っております。今年度は、松田町観光協会に委託し、シンガポールを訪問し、現地での情報収集を行いました。

三つ目の質問、外国人観光客が長時間滞在できる観光ルートについてお答えをいたします。

開成町単独でこのことについて取り組むことは難しいと考えております。まず、近隣市町や観光協会と連携して、あしがらエリアの中でできる宿泊と体験などを洗い出し、効果的なルート設定を検証した上でモデルツアーの実施につなげていきたいと思っております。

また、あしがら観光協会や富士箱根伊豆交流圏市町村ネットワーク会議並びに広域行政事業助成金を活用し、広域連携の一環として観光ルートの確立を図りたいと考えております。

最後に四つ目の御質問、外国人観光客の誘致に必要なインターネット環境について、お答えをいたします。

「日本再興戦略2016」及び「世界最先端IT国家創造宣言」に基づき、外国人旅行者等が観光・災害時にも利用しやすいWi-Fi環境を実現するため、2020年までに主要な観光・防災拠点約3万カ所について、国が作成した「防災等に資するWi-Fi環境の整備計画」に基づき、環境整備を推進するとされております。

開成町においては、現時点で公共施設のWi-Fi環境が未整備であるため、観光拠点の位置付けにより「あしがり郷瀬戸屋敷」を整備箇所として候補に挙げております。

現在、あしがらローカルブランディング事業を通じて、広域的な観点から観光振興を図る中で、外国人ジャーナリスト参加によるモニターツアーを実施し、外国人目線からのあしがらの魅力発信についても検証を行っております。

国全体が2020年のオリンピック・パラリンピック開催に合わせた外国人向けの環境整備等を推進する中で、足柄上地域を中心とした広域的な地域活性化を目的とした外国人観光客誘致のあり方を検証し、必要に応じて必要となる様々な環境整備についても並行して考慮していきたいと思っております。

以上であります。よろしくお願いたします。

○議長（茅沼隆文）

井上議員。

○9番（井上三史）

それでは、追質問させていただきます。ただいま町長が答弁の冒頭に申されたことで、北部の農業資源を活用した、交流人口の拡大を図るため、例えば、箱根町を中心とした県西地域の市町との連携の強化による着地型観光の推進は、町の活性化のための重要な取り組みであるという認識は私も同感です。

さて、ここで新しい観光の形態である着地型観光をどう捉えておいたら良いのか、最初にお伺いたします。

○議長（茅沼隆文）

産業振興課長。

○産業振興課長（遠藤孝一）

では、お答えさせていただきます。まず、着地型観光という言葉が、そもそもなじみがないかと思しますので、若干説明させていただきます。まず、観光施設に一般的にこだわるバスツアー、いわゆる有名な施設をめぐる観光だけでなく、現地の方が実際にツアーに参加した方と交わる、体験をするようなことを着地型観光という位置付けで考えてございます。

実際にこの事業は、今年度においては、具体的に言いますと、南足柄市と開成町とで実施した開成町がかかわった部分においては、瀬戸屋敷と、あと岡野の柿もぎツアーというところを交えて、箱根町の観光協会に委託したということで実施をしております。

今は南足柄市と開成町で行っていますけれども、将来的には、ほかの上郡の町に広げていくという考えでございます。

以上です。

○議長（茅沼隆文）

井上議員。

○9番（井上三史）

分かりました。言いかえれば、観光客の受け入れ先が、地元ならではのプログラムを企画し、参加者が現地集合、現地解散する新しい観光の形態、主に都会にある出発地の旅行会社が企画して、参加者を目的地に連れていく従来の発地型観光と比べて、地域の振興につながると期待されるのが、着地型観光というものの理解でよろしいでしょうか。

この着地型観光の視点と私の今日の質問のテーマであるインバウンド、いわゆる誘致する観光客の中に、外国人観光客をターゲットに入れるという視点をベースにして、質問を展開させていただきます。

最初に、町の三大祭りとして位置付けられる、「あじさいまつり」、「阿波おどり」、「ひなまつり」の2015年、2016年の来場者の人数と伸び率をお伺いしたいと思います。

○議長（茅沼隆文）

産業振興課長。

○産業振興課長（遠藤孝一）

では、お答えさせていただきます。「あじさいまつり」と「阿波おどり」、「ひなまつり」ということで、三大祭りとして位置付けておりますけれども、実際、全てが右肩上がりではありません。昨年度、「あじさい祭り」においては、過去最大の21万6,000人が来場されて、今年度においては、21万人という結果でございます。

「阿波おどり」については、28回、29回、平成27年、28年の総人数は、1万1,000人ということで集計してございます。

「ひなまつり」については、これは日数等が変わった経過がありますけれども、27年度、28年度については、各16日間実際に行いまして、昨年が最大の1万6,745人、今年度は、1万4,550人という状況で、伸び率は逆にあじさいまつり等は、若干昨年と比べるとパーセント的には減ってしまいましたけれども、阿波おどりは横ばい、ひなまつりについては、昨年が最大というのは、メディアの効果、特に昨年度はNHKの全国放送でやっていただいた影響でかなり伸びたと。今年度については、3月1日に、テレビ朝日の朝の番組で放映していただいたことが効果的にはなっておりますけれども、パーセント的には減った部分もあるという御理解でお願いいたします。

○議長（茅沼隆文）

井上議員。

○9番（井上三史）

ありがとうございます。そうすると、メディアによるPRというのは、これからも強く推し進めるといのが、伸び率につながるといのが分かりました。これはとて

も、今後のインバウンドにも参考になる方策なのかなと、まず確認ができました。

次に、開成町の北部地域の瀬戸屋敷での年間を通じた年中行事や周辺の水田を活用した米体験学習塾なども開催し、町外からの交流人口拡大のための取り組みをしているとのことで、ここで米体験学習塾とはどんな事業だったのか、お伺いいたします。

○議長（茅沼隆文）

産業振興課長。

○産業振興課長（遠藤孝一）

ではお答えさせていただきます。この事業は、平成11年度から実施している、かなり古い事業でございます、町の農業委員会が主体で実施しております。塾長としては、そのときどきの農業委員会の会長さんが塾長という立場で実施をしています。

議員おっしゃったとおり、都市部の御家族を招いてということで、最初のうちは、神奈川県広報等に載せていただいて、募集をいたしました。場所については、若干田んぼが地主の都合等で変わったりした経過がございますけれども、現在は瀬戸屋敷北側の農地で実施して、大体100人ぐらいの家族を呼んで実施してまして、「あじさいまつり」の前に、イベントとして田植えをして、それで秋に稲刈りをして、収穫祭をやるという事業でございます。

○議長（茅沼隆文）

井上議員。

○9番（井上三史）

ありがとうございます。平成11年度から、本当に歴史のある、また、農業委員がやっているということが分かりました。

私がちょっと関心を持ったのは、都会から来ているということですよ。やはり町外といっても、都会の人たちがこちらに来て、そういう体験学習をして、体験ですか、そういうものをしているということが分かりました。また100人もいるというのは、これはすごいですね。これは50組の家族ぐらいなんですかね。おおよそ100人、延べで良いですか。

○議長（茅沼隆文）

産業振興課長。

○産業振興課長（遠藤孝一）

家族数としては、最大が32家族あったときが、196人ということがありましたけれど、平均すると、40家族以下で100人が普通の年でございます。

○議長（茅沼隆文）

井上議員。

○9番（井上三史）

その中にリピーターは把握できておりますか。

○議長（茅沼隆文）

産業振興課長。

○産業振興課長（遠藤孝一）

これは毎年楽しみにしていただいている御家族がごございますけれども、基本的には小学生ということで、中学生になると、必然的に卒業するみたいなイメージでございます。

○議長（茅沼隆文）

井上議員。

○9番（井上三史）

ありがとうございます。子どもがやはり楽しみを覚える。あるいは大人も良いものだということ、やはり1回ぼつきりではなくて、リピーターになるということも、この米体験学習塾のことで分かりました。これも1点、今後のことで押さえたところでは。

では、次に、広域連携についてお尋ねいたします。あしがら観光協会での広域的な観光誘致の取り組みは、どんな状況なのでしょう。また、商品としての具体の観光ルートはあるのでしょうか。

○議長（茅沼隆文）

産業振興課長。

○産業振興課長（遠藤孝一）

あしがら観光協会という事務局は、神奈川県が実際は担っておりまして、現在は南足柄市と足柄上郡5町で実施しているところでございます。

先程申しました、着地型観光についても、そちらの提案等いただきまして、今後、範囲を広げていきたいと考えてございます。

○議長（茅沼隆文）

井上議員。

○9番（井上三史）

大体把握できました。では、次に県を超える取り組みとして、静岡県、山梨県、神奈川県の3県内38市町村で構成する、富士箱根伊豆交流圏市町村ネットワーク会議などの取り組みでの広域連携を進め、隔年で開催されるサミットに参加し、開成町のPRに努めているという町長答弁がありましたけれども、そこでお伺いいたします。

最近開かれたサミットは、一番新しいのでいつ頃になるのでしょうか。

○議長（茅沼隆文）

企画政策課長。

○企画政策課長（岩本浩二）

それで、お答えをいたします。隔年に開催ということで、前回のサミットにつきましては、平成27年度、静岡県の富士市で行われておりまして、次回につきましては、平成29年度、富士吉田市で開催を予定してございます。

○議長（茅沼隆文）

井上議員。

○9番（井上三史）

分かりました。では、来年度、また開かれるということが確認できました。そこで

はどのような連携が話し合われるのでしょうか。毎年同じ連携何でしょうか、少しずつ時代とともに、連携の内容が変わってきているのでしょうか、その辺、お願いいたします。

○議長（茅沼隆文）

企画政策課長。

○企画政策課長（岩本浩二）

お答えをいたします。連携ということで、一応ネットワーク会議の中で、部会を三つ設けておりました、観光部会、防災部会、広域連携推進部会の三つの部会を設置しております、これまで防災関係の議題が多かったという流れがございますけれども、ここにきて、ある程度観光面の連携といえますか、その辺の議題も出てきているという状況でございます、PR等につきましても、サミットの機会を捉えてさせていただいているという状況でございます。

○議長（茅沼隆文）

井上議員。

○9番（井上三史）

なるほど、そうすると、防災について、確かに今まで様々な同僚議員の質問もありましたし、観光についてはあまり質問がなかった経緯もあるんですけれども、来年開かれるにあたって、今回、観光面について、ここで論議していけたらなと思っております。

防災の話ですと、なかなか開成町のPRというのほしくなかったのかもしれませんが、もし観光面で、開成町のPRに努めるとしたら、具体的にどんなPRをされるのか、あるいはされてきたのか、その辺、ちょっとお伺いをしたいと思います。

○議長（茅沼隆文）

産業振興課長。

○産業振興課長（遠藤孝一）

御存知のとおり、開成町は、特産物という特産物がない町で、強いて挙げるなら、イチゴの産地だったわけですが、現在は、実際生産されている農家は1軒しかないという状況。

あるいは水のPR、昨年から水がおいしいということでさせていただいておりますけれども、これに伴って、米はおいしいというところで、米どころのPRをさせていただいております。

農産物に限らず、あとは町の良さをPRしていくということになるかと思っておりますけれども、実際、開成町においては、これといったものが、歴史的な有名なものといっても、あしがり郷瀬戸屋敷と文化財になっているのは、円通寺の観音さんという2カ所しかございません。

しかしながら、開成町の良いところというところでは、今、三大祭りと言われていましたけれども、これは全て手づくり、町民の手づくりからなる、お祭りというところで、そういう手づくり感のあるお祭りをPRしていくというのも、あるんじゃない

かと考えてございます。

○議長（茅沼隆文）

井上議員。

○9番（井上三史）

今までの行政サイドの苦勞の一旦を少し伺うことができます。イチゴとか、水とか、米とか、そういうものは、開成町は農産物が少ないということがありますけれども、今、遠藤課長の言われた町の良さというのでしょうか。手づくりでこの大きい祭りをつくってきているという、私はこれは相当開成町強味としてなるのではないかなど。特に着地型観光というのは、手づくり、まさにその売りですので、その辺のところは、この三大祭りが大きく参考になるものなのかなど、今、確信いたしました。

では、次に、市町村振興協会広域行政助成事業というのは、どんな事業なんでしょうか。

○議長（茅沼隆文）

企画政策課長。

○企画政策課長（岩本浩二）

それでは、御質問にお答えいたします。

この助成金につきましては、宝くじの収益金、これを効果的に活用して、市町村の振興発展を図るための諸事業を行うためということで、都道府県ごとに市町村振興協会、こちらが設置されておりまして、こちらの事業の一つとなっております。

複数の市町村、これが特定の広域的政策課題に基づき実施をいたします、地域活性化への取り組みに対しまして、各年度1市町村あたり500万円を限度に助成されるものでございまして、今年度、開成町におきましては、9事業に対して、助成を受けております。こちらにつきましても、今後も積極的に活用を図ってまいりたいと考えてございます。

○議長（茅沼隆文）

井上議員。

○9番（井上三史）

宝くじといいますと、今まで自治会に分けて助成として回っているということもあるのですが、観光に、これから宝くじの予算が、どの程度使えるものなのか、ちょっとお伺いいたします。

○議長（茅沼隆文）

企画政策課長。

○企画政策課長（岩本浩二）

お答えをいたします。先程も申しあげましたとおり、複数の市町村が連携事業というものの取り組みにあたって、各市町500万円を限度として助成がなされるというものでございますので、観光に関していくらまでということよりは、その範囲内で観光に対してどういう事業を組んでいくかということになりますので、先程答弁でもございましたとおり、シンガポールの事業等も、今年度から新規事業として取り組んで



おりますけれども、このようなものについて、新規事業の開拓も含めて、今後、積極的に取り組むということの中では、増えていくことも考えられるということでございます。

○議長（茅沼隆文）

井上議員。

○9番（井上三史）

分かりました。ありがとうございます。

次に、足柄上地区広域行政協議会において合意された、1市5町の共通課題である観光施策の充実に向け、足柄上地区基礎自治体のあり方専門部会の事業として位置付けられました、あしがらローカルブランディング事業につきまして、少しお伺いしたいと思います。

この事業の目的は、足柄上地域1市5町が連携して、あしがらローカルブランディングに取り組み、1000年の湧水、足柄水源という統一されたコンセプトのもとで、足柄エリアの地域イメージの浸透を図ることで、各市町の枠を超えた地域全体の活性化に寄与し、個別の観光振興策をより効果的なものにするという目的を持っているとのこと。また、小田原や箱根の温泉、海、歴史などのブランドイメージに、足柄エリアの奥山、里地、里山などをはじめとする地域資源を付加することで、神奈川県西部全体で、着地型観光などによる回遊性を高め、相乗効果を発揮させるとともに、神奈川県西部地域2市8町をエリアとする県西版DMOの創設にあしがらローカルブランディングを連携させる目的もあると伺っております。

そこでこの新しい言葉、ここでの県西版DMOの解釈なんですけれども、私なりにDMOとは何だと思ったときに、ディステニーション・マネジメント、またはマーケティング・オーガナイゼーションの略だと思われま。いわゆる様々な地域資源を組み合わせた観光地の一体的なブランドづくり、WEB、SNS等を活用した情報発信、プロモーション、効果的なマーケティング、戦略作成等について、地域が主体となっていく観光地域づくりの推進であるという解釈ができるのですけれども、この解釈でよろしいでしょうか。

○議長（茅沼隆文）

企画政策課長。

○企画政策課長（岩本浩二）

それでは、お答えいたします。そのような解釈でよろしいかと思っております。

○議長（茅沼隆文）

井上議員。

○9番（井上三史）

ありがとうございます。そこでお伺いいたします。開成町の地域資源のすばらしさ、開成町の売りをどう捉えていらっしゃるのか。先程、遠藤課長の、三大祭りの手づくりですよという良さ、先程ちょっとお伺いいたしましたけれども、改めて担当部署の見解をお伺いいたします。

○議長（茅沼隆文）

産業振興課長。

○産業振興課長（遠藤孝一）

では、お答えさせていただきます。開成町の良さというところで、先程、三大祭はみんな町民の手づくりで、もてなしの精神でやっているところが売りだというお話をさせていただいたところですけども、60周年の、いわゆる「田舎モダン」という言葉で表しているとおおり、都会過ぎず、田舎過ぎず、不便でもなく、便利過ぎるわけでもないような、風景的には、山の風景は借景になりますけれども、そういった風景、自然が溶け込んで、「田舎モダン」なところというところをPRしていくのが町として良いと考えてございます。

○議長（茅沼隆文）

井上議員。

○9番（井上三史）

私も質問にあたって、自分なりに開成町の良さは何だろうと。私も自問自答して見ました。今、遠藤課長が言われるように、やはり自然の豊かさというのは、これは開成町の周りの山々を見ての自然の豊かさがあるのでしょうかけれども、やはりまだまだ開成町には自然が豊かで、これは一つ売りなのかなと。

それから、私は人の心というのものがあるのではないのかなと思っております。要するに町民の温かい人柄、私はこれは開成町の売りにできるのではないかと考えております。

それから、子どもから高齢者まで一丸となって踊る阿波おどり、これもただ単に、阿波おどりという祭りのイメージではなくて、開成町民が子どもから高齢者まで一体となっているよ。これは絶対売りだと思うんですね。やはり開成町の未来は、子どもたちに受け継いでもらわなければいけませんので、その子どもたちが祭りの中で参加している姿、これは開成町が今後あらゆる事業を行うときに、必ず子どもも入れている。子どもも一緒にという、ここが脈々と開成町の伝統を受け継いでいく可能性がそこにあると、私は確信しております。この辺が開成町の良さなのかなと思っております。

実は、開成町に来られた方に、開成町の良さって何ですかと聞いたことがあるんですね。やはりこの三つを言っておりましたら、やはり開成町というのは、最初来たときに、自然が豊かで良いな、こういうところに住みたいなと思ったんだそうです。そして、開成町の人とかかわって、その温かさを感じたというのですね。やはり阿波おどりとか、あじさい祭りとか、ひなまつり見て、例えば、ひなまつりの囲炉裏のところ、甘酒とそれから、おでんなども食べながら、そこで出してくれる婦人会の方々なんだろうね。その人の心温まるおもてなし、これが最高だったと言っております。我々中にいると、なかなか自分たちの住んでいる町の良さとか分かりづらいのですけども、いろいろ聞いてみると、見えてくるものがあると。

私はこれから開成町民一人ひとりがインバウンド、外国人観光客をお迎えするにあ

たって、開成町の良さはこれなんだと。自らの町民たちが自信を持って言えることが大事なんだと。その辺のところの確認は、教育とか、生涯学習とか、そういう中でお互い町民の中で確認して行ってほしいなど、そんなふうに思っております。

あと、先程のあしがらローカルブランディングのPR版の中を見てみますと、開成町がいろいろコンセプトがあったんですけども、私が三つ選んでみたんですけども、やはり水、地下水を含めた水、それから蛍、それから酒匂川にそよぐ風、それらを開成町の売りになる、そんなふうに感じております。

さて、「るるぶ」の特別編集のところ、この間、課長から2部いただきまして、私もその中でページをめくっていきますと、「るるぶ」で開成町のことを紹介しているのは、あじさいの里、それから、瀬戸屋敷のひなまつり、開成町のあじさいまつり、開成町の阿波おどり、松田と一緒にやっているあしがら花火大会、それから、あしがら郷瀬戸屋敷そのもの、それから、開成町のコリコリ井、なんとマルシェかいせい、それから、開成里弁、最近、ブランディングに入ってきたやいぢろうの焼酎、それから、酒田錦という、これを挙げているんですね。次年度は英語版が出るので、インバウンド対応の第一歩として、私は期待しております。

それでは、②のターゲットに考えている観光客として、外国人観光客も含まれているのか。に移ります。

先程の町長答弁では、これまで開成町の観光PRにおいて、特に外国人を対象としたものは実施していないということでしたので、開成町のインバウンドはこれから始まるということでしょうか。

ところで、開成町には現在、外国人はどのくらいいると思われれますか。平成29年2月28日現在、開成町自治会別人口統計表を手に入れまして、それを見てみますと、外国人は中家村自治会で33名、円中自治会に17名、下島自治会に16名、上島自治会に15名を筆頭に、合計119名が在住しておりました。119名の国籍別に見ると、中国が24名、ブラジルが21名、ネパールが17名、韓国が16名、フィリピンが12名、ペルーが12名、ほかタイ、アメリカ、イギリス、インド、インドネシア、イラン、ボリビア、パキスタン、ロシアが数名ずつとなっております。

開成町では、中国人、ブラジル人を筆頭にアジアのASEAN諸国が中心で、ヨーロッパ、アメリカは数名であるということが統計から分かりました。

そこで開成町在住の外国人に、開成町のすばらしさをまず知っていただく。そして、母国にいる親戚、知人に、開成町をPRしていただく。願わくば、日本に来られたときには、ぜひ、開成町に立ち寄ってねと誘っていただく。インバウンド、いわゆる外国人観光客を考えると、この開成町在住の外国人が参考になるとは思いますが、いかがでしょうか。担当部署の所見をお伺いいたします。

○議長（茅沼隆文）

産業振興課長。

○産業振興課長（遠藤孝一）

ただいま町内に在住の外国人の方の状況ということで御説明がありました。議員が

おっしゃるように、この方々に開成町の良さを伝えて、開成町に観光として来ていただくという策はあろうかと思えます。

この人数的には、1%にも満たないものですが、これはローカルブランディングで、実際、今始めて、外国人目線から見た、開成町に限らず、上郡の良いところ、あしがらの良いところはどこかという模索をしているところですので、この辺もまとめて、そういう方たちに伝えていければと考えてございます。

○議長（茅沼隆文）

井上議員。

○9番（井上三史）

今、課長の言葉の中にも、1%に満たない、確かにその数字です。

でも、私はインバウンドをこれから考えていくときに、開成町在住外国人に、大いに活躍していただきたい。そのように考えてございます。この外国人観光客をお迎えするときには、通訳ボランティアが必要になってくる。この開成町に在住の外国人に通訳ボランティアを依頼するというのも、今後、考えても良いのではないか。ないしはパンフレット、リーフレット、チラシ、案内板などを作成するときに、日本語をそれぞれの母国語に翻訳していただくお仕事を依頼するとか、それから、外国人観光客の習慣や食などの文化を知るために、在住外国人の目線に立った、多くの情報を得ることができるなど、様々なところでの活躍が期待できるわけですが、この辺の考え方はいかがでしょうか。

○議長（茅沼隆文）

行政推進部長。

○行政推進部長（秋谷 勉）

先程の御質問とも重なりますが、今おっしゃった120名ほどの外国人の方ですが、はっきりと分析したわけではないのですが、どちらかというと、日本に出稼ぎに来ていられる、外貨を稼いでいられるという方が多い。また、そのお金は母国へ仕送りをされている。そういう方々だと思います。そうすると、なかなか母国の方がそのお金でまた観光で来るかという、なかなかそこは厳しいのかなというところもございます。

また、私が昔担当していたころは、やはりそういう派遣業者の方がまとめてその国から労働力として連れてくるような、そういう状態でございますので、なかなか開成町に定住して、町との、母国との橋渡しになってくれるような人材というのは、なかなか今の段階では厳しいのかなと考えてございます。

○議長（茅沼隆文）

井上議員。

○9番（井上三史）

そういう見方も確かにありますね。

しかし、でもうまく使いたいなど。119名の中には、わずかで、通訳良いですよとか、あるいはそのお友達が、日本ってどんなところと聞いてきたときに、その人た

ちに、日本ってこんな、特に開成町ってこんな良いところだよとPRをしていただくということはやっていただけることは、可能性は高いなど。何かそういうところも期待していききたいところでございます。

さて、足柄上郡5町でも、シンガポールなど、ASEAN諸国に着目し、インバウンド獲得による地域活性化ができるか。実現の可能性を探っているとのこと。アジアのASEAN諸国に的を絞っているというのは、開成町にいられる外国人の数からも推測しますと、的を射ているところの場所なのかなと思っております。

今年度は松田町観光協会に委託されたようで、シンガポールを訪問し、現地情報収集を行ったという答弁がありましたけれども、その報告というのはあるのでしょうか。あるとしたら、いつ頃になるのでしょうか。

○議長（茅沼隆文）

企画政策課長。

○企画政策課長（岩本浩二）

お答えをいたします。まだ、今月中に報告があるということで伺っておりますけれども、まだ具体的な内容についてはお聞きしてございませんので、また、我々で聞いてから、情報等を提供させていただければと考えています。

○議長（茅沼隆文）

井上議員。

○9番（井上三史）

ぜひよろしく願いいたします。

では、③番の外国人観光客が長時間滞在できる観光ルートに移らせていただきます。

先程の町長答弁では、近隣市町や観光協会と連携して、足柄エリアの中でできる宿泊と体験などを洗い出し、効果的なルート設定を検証した上で、モデルツアー実施につなげる。また、足柄観光協会や富士、箱根、伊豆、交流圏市町村ネットワーク会議並びに広域行政事業助成金を活用して、広域連携の一環として観光のルートの確立を進めるとのこと。

さて、ここで重要なのは、観光ルートの中に、開成町の何を設定するのでしょうか。

もしある程度の所見があるならば、お伺いしたいと思います。

○議長（茅沼隆文）

産業振興課長。

○産業振興課長（遠藤孝一）

では、開成町で行った、考えられる資源として、実際行ったツアーとしては、先程申しあげました、瀬戸屋敷から岡野の柿狩り等を行いました。あとは今年度具体的に実施したところでは、二大ひなまつりと桜まつりと、ニンジン狩りというタイトルで募集をした案件がございます。これは松田町と南足柄市と開成町というところで行ったものでございます。

これは中澤酒造の試飲、買い物とか、大雄山に寄って、座禅を組んだり、あるいは開成町に寄った場合は、瀬戸屋敷とそばのニンジン畑で収穫をしたということござ

いまして、この体験という意味で、資源になるかと考えてございます。

○議長（茅沼隆文）

井上議員。

○9番（井上三史）

私も事例を一つ紹介させていただきます。

去年の9月10日に行われた、開成阿波おどりでのことです。中家村みどり連が、開成町役場前の会場に来たときに、4人の外国人に出会いました。みどり連の中に、外国人に出会うと、すぐ声をかけたがる人がおりまして、このときも、いつものごとく声をかけたそうです。でも、英語は全く通じなかったと言っていました。言葉のアクセントから、ロシア語なら通じるかもということ、片言のロシア語で意思が伝わり、一緒に写真を撮ることになりました。さらに打ち解けてしまい、みどり連の中に加わり、一緒に踊ると言い出したのです。見様見真似で7分間一緒に見事に踊り、全く違和感がありませんでした。驚いたことに、演技終了後、再びびよんびよん飛びはねて、その演技力に観客の拍手喝采を浴びておりました。4人の外国人は貴重なすばらしい体験をされたと思います。

後で聞いた話ですが、4人はウクライナ人で、日本にバレエの研修に来ていたとのこと。阿波おどりを見ているうちに、踊る方を見抜き、踊りたくなり、うずうずしていたときに、みどり連がやって来た。それも声をかけていただき、一緒に踊ることになり、大変喜んでいただとのことでした。きっと開成町阿波おどりのことを、大いに宣伝してくれることでしょう。私はこの事例の中に、インバウンド、着地型観光のヒントがあると思うのです。4人の外国人が、開成町にやって来ました。そこで開成阿波おどりという文化に触れ、自ら阿波おどりに加わり、開成町民と触れ合うという貴重な体験をすることができたわけです。4人の外国人とみどり連のメンバー両者ともに満足感があふれた表情が1枚の写真に写っておりました。これは外国人だけではなくて、一緒にお迎えした開成町民も満足感が得られる、私はここがポイントだなと思っております。

瀬戸屋敷・あじさいの里が、観光ルートに位置付けられるのはもちろんのこと、例えば、町民が育てた農産物を使い、町民のまごころを込めた料理を、町民と一緒に食事をするという体験ツアーも外国人にはきっと喜ばれるのではないかと思うのです。

この点、担当部署の所見を、どうでしょうか。

○議長（茅沼隆文）

産業振興課長。

○産業振興課長（遠藤孝一）

開成町において、特にこれといった郷土料理もないということでもありますけれども、今おっしゃった体験型の料理をつくって体験をするということは、参考にさせていただきたいと思います。

○議長（茅沼隆文）

井上議員。

○9番（井上三史）

ありがとうございます。観光資源が開成町にはないないという、ないないづくしという一面もあるのですが、私は掘り起こしていけば、必ず何か見つかる。そこがこれからの政策する部署、ないしは方々の、この辺、発掘するわくわく感というものをぜひ忘れないでやっていただけたらなと思うところでございます。

それでは、最後の④外国人観光客の誘致に必要なインターネット環境に移らせていただきます。外国人観光客は、スマートフォンやタブレット端末を使って、情報を得ております。そのためには、インターネットWi-Fi環境は、必要です。先程の町長答弁の中では、あしがり郷瀬戸屋敷を整備箇所挙げていましたので、少なくとも1カ所には整備されることが分かりました。それ以外の箇所の整備計画はどうなっているのでしょうか、お伺いいたします。

○議長（茅沼隆文）

企画政策課長。

○企画政策課長（岩本浩二）

お答えをさせていただきます。答弁にもございましたとおり、総務省で、防災等に資するWi-Fi環境の整備計画、これに対する意向調査がございました。こちらの調査におきまして、災害時の避難場所である防災拠点整備箇所、これの候補としては、役場、幼稚園、小学校、中学校、吉田島高校、水辺スポーツ公園を挙げてございます。瀬戸屋敷につきましては、観光関連の情報収集に活用をいただくための観光拠点整備箇所として挙げさせていただいたということでございます。

○議長（茅沼隆文）

井上議員。

○9番（井上三史）

そうしますと、防災からの観点でのWi-Fi設置と観光面でのWi-Fi設置をあわせれば、それなりに開成町エリアにWi-Fi環境というのは、整っていく道筋は見えているかなと、そんなふうに今の御答弁で感じました。

学校などに設置されたWi-Fiというのは、例えば、外国人が、学校施設などをもし使うようなイベント等が開拓されたときには、まさにそのときに使えるのではないかなと思っております。

実は私、時々スターバックスに、南足柄市と開成町の境にあるスターバックスにコーヒーを飲みに行くのですが、最近、スターバックスの若者の客が、夜10時、11時まで、もう満席のような状態なんですね。なぜかと私も不思議に思ったんですけども、座席のそばにフリーWi-Fiと書いてあるんですね。御自由にWi-Fiをどうぞということなんだろうけれども、日本語に直せば、Wi-Fiは無料ですよという解釈にもなるわけなんですけれども、私は外国人観光客が立ち寄った先で、Wi-Fiが使えるということは、まさにタブレットを使って、様々な情報を得ている証拠ではないかなと思っております。そこで私の考えなんですけれども、開成町内にも、お店は多々あるわけなんですけれども、そのお店にWi-Fiを置いてねと

ということが、一つの案として浮上してきたんですけれども、その辺について、いかがでしょうか。

○議長（茅沼隆文）

企画政策課長。

○企画政策課長（岩本浩二）

お答えをさせていただきます。先程、防災の拠点と観光の拠点ということで8カ所挙げさせていただきましたけれども、そちらにつきましては、必ずしも整備を確実にしていくということではございませんで、現時点で、全国3万カ所のうちの8カ所、候補地として挙げさせていただいているということでごさいます。今、御提案ございました、民間の店舗ですとか、そういうものときちんとそういう役割分担と申しましょうか。そういうWi-Fi設置の拠点をどう増やしていくかということについては、しかるべき時期、しかるべき場所に設置できるようなことで、これから検討、研究を重ねてまいりまして、必要なところに設置をしていきたいと考えてございます。

○議長（茅沼隆文）

まちづくり部長。

○まちづくり部長（芳山 忠）

私が気がついたところでは、町内の飲食店におきましても、Wi-Fi環境が整備されているといったところもあるようでございます。実際に私も目撃したところもございまして、そういったお店側の戦略として、自主的にそういう環境を整備されているところもあるようですので、そういった動きも大切にしながら、推移を見ていきたいなと思っております。

それと先程ちょっと答弁の中で、着地型観光を話しておりますけれども、の関係で、開成町のあり方ということですのでけれども、御存知のとおり今、開成町北部では、酒造会社の再生、立ち上げが動いております。開成町はもともと北部に非常に質の高い野菜を産出するエリアがございます。そしてとても良い水があるということで、いわゆる醸造の文化とあいまって、非常におもしろいといえますか、人を引き付ける、魅力のある一つの材料が整うのではないかと、そのように考えておりますので、議員御指摘の、いわゆる着地型観光の、一つの大きな形として、PRする材料にはなるのではないかと、今後、そういうふうには考えておりますので、決してないないづくしということではないと考えておりますこと、一言追加させていただきます。

○議長（茅沼隆文）

井上議員。

○9番（井上三史）

期待の持てる御発言、ありがとうございます。やはり開拓してこそ、見つかるのではないかなと思いますので、その辺、町民も行政も知恵を絞りながら見出していただけならなと思っております。

一つまた、事例を御紹介いたしますけれども、家庭内Wi-Fiというのも実はありまして、A4サイズぐらいの半分ぐらいの高さと横幅らしいんですけれども、月に



聞いてみますと5,000円のランニングコストがかかり、年間6万円かかると。ただし、それに2年間契約をすると、機械そのものは無料でどうぞという、そういうサービスもあるようなんですけれども、まだ、年間6万円は高いかなと思っております。また数年経てば、さらにコストは下がっていくのではないかなと、そんなふうに思っております。

時間の関係で、実は市町村のホームページの中に、開成町の「売りを」ということを質問したかったんですけど、ちょっとこれはまた、次回ないしはあとチャンスがありましたら、そのときに使わせていただきます。

さて、ICT、情報通信技術は、様々な活用してこそ、その力を発揮するものだと私は思います。開成町の古き良きものを残し、新しい技術を生かしてこそ、開成町の未来は開けると確信しております。

これで私の一般質問は終わらせていただきます。どうもありがとうございました。

○議長（茅沼隆文）

これで井上議員の一般質問を終了いたします。